

番組審議会議事録（第13回、平成31年2月18日開催）

1 開催年月日：平成31年2月18日（月）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（7階 白根）

3 委員出席

委員総数 9名

出席委員数 8名

出席委員の氏名：岡田裕介（東映株式会社 代表取締役グループ会長）、

足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

兵頭俊夫（大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

物質構造化学研究所 ダイヤモンドフェロー）、

音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、

金子光男（公益社団法人日本将棋連盟 学校教育アドバイザー 大学担当

学校法人明治大学 監事）、

小川誠子（囲碁棋士／公益財団法人日本棋院 理事）、

清水市代（将棋女流棋士／

公益社団法人日本将棋連盟 常務理事・女流棋士会 監事）

欠席委員の氏名：野田慶人（日本大学 芸術学部 放送学科 教授）

放送事業者側出席者名：岡本光正（株式会社東北新社顧問）、倉元健児代表取締役社長、

驛田雅文業務部部长、遠藤 健業務部課長、高田智子、小松美怜

4 議題

- ・生放送（2018年後半実績）について
- ・レギュラー番組の特別企画について
- ・藤井聡太七段関連番組について
- ・今後の予定

5 議事の概要

(1) 生放送（2018年後半実績）について

2018年後半に放送した番組の中から、生放送を紹介。

「第31期 竜王戦七番勝負」（2018年10月12日～12月21日）

「第40期 霧島酒造杯女流王将戦 三番勝負」（2018年10月13,19日） 他

- (2) レギュラー番組の特別企画について
「お好み置碁道場 特別版」(2019年1月1日)
「棋力向上委員会 The PASSION!! 特別企画～15年目の再会～」
(2018年9月11、18日)
- (3) 藤井聡太七段関連番組
「将棋プレミアムフェス in 名古屋 2018」(2018年12月9日)
「新春! 藤井聡太に訊く」(2019年1月1日)
- (4) 今後の予定
- ・囲碁界・将棋界の将来を担う注目の棋士にスポットをあて、
随時その動向を様々な形でタイムリーに紹介
 - ・ネット生配信の長時間対局番組の放送での活用
 - ・国際化へのアプローチ

6 審議内容

- (1) 生放送「霧島酒造杯女流王将戦」について
(放送事業者)「霧島酒造杯女流王将戦」これまで収録で放送していたが、収録だとどうしても結果の方が先に公表されてしまつてつまらないという意見も多かった。そこで、今期から三番勝負を生放送とした。第1局が宮崎県都城市という遠いところでの対局だったが、現地の楽しい映像や風景等の見どころも盛り込みながら長時間にわたって生放送した。
- (兵頭委員) 時刻ごとの視聴率はあるか。
(放送事業者) 30分おきにある。どの棋戦に関しても言えることだが、終盤に向かうに従って(視聴率が)伸びていく傾向にある。去年の羽生竜王が100期タイトルを取るかという対局もその傾向が顕著だった。
- (小川委員) (現地映像の) 入れ方が難しいとは思うが、個人的にはとてもいいと思った。どういう土地で対局しているのかが見られて良い。
- (岡田委員長) (女流王将戦番勝負は) 持ち時間は何時間か?
(清水委員) 今期から持ち時間は3時間となった。これまでは早指し棋戦だったが、たっぷり(対局の)時間を取っていただくことで、(女流王将戦番勝負を)初めて生放送することが実現できた。
- (岡田委員長) 持ち時間が3時間と言うのは、見ている側としては長い。間で色々な物を入れていかないと。やっぱりもう少し、その土地の色々な物とか食べ物とか含めて、レポートすべきでは。また次の年に都城市になることもあるだろうから、その時に同じことをしても仕方がないところもある。そのあたりは1回、2回、3回と色々と考えていかないといけないかもしれない。
- 解説も大変だが、対局者二人のプロフィールばかりでなく、本人のインタビュー

一含めて長く撮っておいて入れて挿んでいくことが随時必要なのではないかと思う。

(金子委員) 事前の準備はどのくらいかけたのか。

(放送事業者) 2カ月くらい。地元のケーブルテレビジョン様とも技術的な相互協力で行ったが、地元の方は大規模な生中継の実施経験が無かったので、何回かロケハンに行き、現地で擦り合わせを2カ月くらい前から行った。

(金子委員) そういう準備をきっちりしておけば、次に繋がりますし、可能性が広がる気がする。

(音委員) せっかく都城市ですし、ひとつひとつ(名所を)紹介されているのかもしれないが、霧島酒造創業記念館等ひとつひとつ長めに撮られて使うとすごく良いのではないかと思う。ケーブルテレビの方も、その点に関してポジティブに対応してくれるのではないかと思う。確か、ショッピングチャンネルが地元のケーブルテレビと連動して、地元の映像をたくさん使われていてやっていますね。それと囲碁・将棋チャンネルとの関係性を高めるというのもそうですし、地元の映像素材が文化的な価値になっていくと思う。

(清水委員) 番組をご覧になっていただいたお客様からは、やはり生放送がすごく楽しめたということと、一番良かったのは、対局中の対局者ではなくて、そうではない部分が、例えばインタビューもそうですけれど、地元の霧島酒造さんと都城市さんとのふれあいといったシーンがすごく楽しかったというのがあったので、もう少しそのお時間が取れるのであれば、もっと喜ばれるのかなと感じた。

(兵頭委員) 画面の右下に常に小さく対局映像を映しておくとか、細かくは分からなくて良いが、動きがあるかないか分かって、動きがあったら切り替わる、というのはどうか。難しいと思うが。

(金子委員) 自治体の協力等はどうか。

(放送事業者) 基本的には協力的。今回は初めてのケースであって、次回からはもっとスムーズにご協力いただいて、色々な部分を紹介できるのではと思っている。

(2) 生放送「2日制のタイトル戦」について

(放送事業者) 2日制のタイトル戦は、これまでは2日目の朝の1時間と、夕方の5時か6時からの1~2時間だけ生放送していたが、本年1月から夕方の枠を拡大して、昼食休憩が終わったあたりから終局まで、長時間放送することにした。

(小川委員) やはり、後半の方が盛り上がりますね。

(中村委員) 将棋で(タイトル戦)終局が早かった時がありましたね。

(放送事業者) 午後3時ごろに終局したことがありました。

(中村委員) そうするとやはり昼から放送していないと。盛り上がるので良いと思

う。

(放送事業者) 実際、昨年12月に竜王戦で羽生竜王と広瀬八段の第3局を弊社は午後5時から生放送予定していたが、午後5時前に投了するのではないかとハラハラしていた。そこで午後にはもっと早い時間から生放送することが、ひとつの手段として視聴者の方にお届けできることではないかということで、こういうご報告になったことをご理解いただければと思う。

(兵頭委員) そこは見どころですから、良いと思う。

(岡田委員長) (囲碁) 棋聖戦で視聴者は何を見ているのですかね。大半というか全てアマチュアの人と考えて良い。アマチュアの方はいったい何を見ているか。臨場感か。(次の)手を見ているのか。取る一手であれば分かるかもしれないけれど、何を見ているのか、一回きちんと勉強された方が良いのではないか。それによって、色々構成が変わってくると思う。本当に手を知りたいのかどうか等。はっきり申し上げて、解説者は棋聖戦で戦っている対局者よりも弱い。二人の戦っている本当のレベルで解説していくとすると、解説できる人がいなくなる。(解説で)横から見ているのでは棋力が落ちるので。本当に対局の盤に向かっているのでは。普通はやはりそういうのを考えると、よほどの人が解説しなければ面白くないというところはある。本当の真髄は。そうではなくて、アマチュア(視聴者)に何を聞かれているのかや、解説のことを含めて、定番の解説者と聞き手がいて、聞き手に『どう打つのがいいのですか』と聞かれて、解説者から正解手が出るのであれば棋聖位よりも強いわけだから。微妙なバランスの中にあると思うけれど。やっぱり、何をお届けすれば良いかというのは、一回協議したり、考えたりなされた方が良く思う。

レベルをどこに合わせるかということが大事。一番はテストと同じでピークの人に合わせるのがノーマルと言われている。映画も同じ。どのレベルで作るかという時に、ピークの人に合わせるために、ピークの人たちがどれくらいなのかということを知って作っていくと良いと思う。

(兵頭委員) 永遠の課題。話が外れるかもしれないが、昨日(2/17)午後7時からEテレ(バリバラ日曜午後7:00放送)を見ていたら、マチュピチュの映像などを、視覚障がいがある方にNHKのアナウンサーが映像を見ながら説明するという番組で、我々一般的にはすごく良い説明なのですが、視覚障がいのある方は何も分からなかった。次にその意見を反映して、もう一度NHKのアナウンサーが説明すると、分からないが面白かった、という意見になった。だから、対象者を考えるとどうすることが良いのか、すごく深い話だなと思った。私は将棋を見ないけれど、私にも分かるように説明してもらえないかなと。私は(将棋知識は)裾野ですから、真ん中の人向けでいいと思うが。色々な分野で研究しがいのあるテー

マかと思う。

(3) 生放送「形勢判断」について

(放送事業者) 視聴者の方から、よく言われるのが、パッと見たときにどちらが優勢か分からないというご意見があった。特に囲碁。解説の先生はどちらが優勢か分かるけれども、一般視聴者には分かりにくいところがあります。

(岡田委員長) この間もこちらの方が勝っていると思ったけれど、逆が勝ったということがあった。囲碁は時々ありますよね。解説者が間違っていたと言うか、やはりこちらが勝っていました、というか。そういうゲームなのだと思うのですけれども。最後に並べたらすぐに判るのでしょうけれど。

(小川委員) 将棋を見るときは(形勢が)全然分からないので、例えば藤井七段が出ていると、やはり顔が見たくなりますね。顔を見て、形勢はどちらがいいのかという感じ。囲碁の方は、先ほど解説のお話がありましたが、普通の解説なら、棋士が東京で研究しているトップ棋士の情報をどんどん入れている。ネットやスマホで情報を、形勢や図を送ってやり取りしている。それで解説はとても良くなってきていると思う。

(岡田委員長) 生中継だとなかなか大変。繋いでいくのも大変だが、そういう情報を入ると良い。トッププロの意見があると良い。

(岡田委員長) 升田(幸三)先生が棋力の低い棋士が集まっても、私一人の力に合わないと言ったということもありましたね。でも、そういうのもあってもいいと思う。本当は何人かの解説者がいると良いと思う。いつも思うのは、聞き手が(大盤で)並べたりするからいけないといけない。本当は解説者二人がこういうことじゃないか、なんという手を打ったのか、ということが出ると、聞いていて面白いのではないか。

(足立委員) いま、囲碁プレミアムでゴールド会員になっている人は、高段者が多いのではないか。

(放送事業者) そうですね。

(足立委員) ですから、視聴者や大盤解説にいる人は、囲碁をかなりやっている人が多い気がする。解説もその方に向けてやっているのかと思う。

(放送事業者) 実はAI診断を番組に取り入れようと考えている。解説者の判断だけではなく、AIの判断も取り入れながらやっていこうかと思っている。

(岡田委員長) AIは会社によって違うのではないか。何社も入れても面白くないから、何か良いところを取り入れたらいいと思う。

(4) 藤井聡太七段関連番組と注目の棋士

(放送事業者) 藤井七段出演したイベント「プレミアムフェス in 名古屋」がとても関心が高く、申し込み募集開始してすぐにチケットが売り切れてしまった。

(金子委員) いま、9歳の女の子、仲邑さんも話題ですね。

(放送事業者) 仲邑 董さんですね。弊社でも、2/20に対局を生放送します。

(小川委員) (対局者は) 黒嘉嘉七段ですね。楽しみ。

(放送事業者) これからどんどん追っていきたいと思う。

(小川委員) (上野女流棋聖の妹さん) 上野梨紗さんも4/1にデビューする。

(金子委員) NHKで『盤上のアルファ』もやっている。いろいろな出来事があって、囲碁と将棋の人気も高まっている。学校教育の中でもだんだん浸透してきているようだ。

(5) 今後の予定：国際化へのアプローチ

(足立委員) 日中韓というのは、非常に政治的には対立ばかりだが、そういうことの解消のため囲碁が役に立たないかと。なかなか難しいことだとは思いますが、せっかくこれほどの日中韓の関係(囲碁)であるし、竜星戦もあることだし、そういうアイデアがないものか。向こうの放送局とも話し合わせてみてはどうか。

(放送事業者) 実は、2年ほど前に議連の柳本議員に依頼されて、日中議連で行った。一昨年は日本開催で日中、昨年は韓国開催で日中韓、今年はおそらく中国で日中韓での開催がされると思う。そういう動きを弊社が協賛してお手伝いしている。日本で開催した時は、中国からは11名来た。日本は小沢先生と菅先生であるとか、引退した先生も来ていた。番組も制作して議員とAIとのペア碁で、日本のAIと中国のAIを使用した。昨年は韓国でしたので、番組制作はできなかったが。

(6) 今後の予定：ネット配信

(放送事業者) 半年後は、ひとつ違ったことを報告したいと思っている。YouTubeの展開をどんどんしていこうかと思っており、試験的に数本番組をアップしている。囲碁と将棋両方をアップしているが、面白いデータがあり、囲碁の方は視聴者の7割が欧米の方々、国内が3割となっている。日中竜星戦はアメリカの方が7割ご視聴されている。囲碁はワールドワイドに、将棋は若手棋士がどんどん出てきているので、またこういった面白いデータを紹介したいと思う。

以上